

### 編輯室の内外

いつも八ヶ間敷離し立てられるお正月も遂に過ぎ去つて終つた、今から振り返つて見ると何だか馬鹿げたやうな氣にもなる、新年號ちやと云つて出版した約三百頁の大冊も、編輯時の氣持は成功したやうであつたが、今と爲つては餘り感心したものでも無い氣がして、讀者各位に對し申譯ないやうだ、が併し自慢ではないが、同業各誌に較べてみると滿更不成功でもなかつた、夫れと言ふのも、お隣の内務省道路課の連中が、特に本誌の爲に骨を折つて呉れた事だ、物質的の要求を斥けて眞に路政の爲に働いて呉れた事だ、唯だ夫れに依つて編輯子が自慢も言へる次第だが、世の中はコー言ふ風に出来てこなければ嘘だ、某大臣が巡査の親切を禮讚した女中の話を耳にして、人情味があれば思想の惡化などは出て來ないと言つた相だが、編輯子は夫れ程、思想の

惡化を恐れ低級な女中位の考を現時代の中の思想と誤解はしてゐないが、唯物的根性の漲つてゐる今の世の中に、道路課員の精神的奉公を讀へたい丈けのことだ。

議會の再會迄にはまだ日子があると考へたのか各省とも暇があるらしい、忠告やらいらぬ惡口を叩きに來る大官連が尠くない匿名で各省の惡口を言ふのを罷めるとか、何とか言つて來るが、唯だ一人編輯子に好意を寄せて呉れたのは、同じ棟の内に住んでゐる故であらうか、地方局長の佐上サンだけだ、雜誌も随分發展したネー、二三ヶ月で廢刊すると言つた連中もあつたが、茲まで來れば獨立して立派に行ける、コーなつたのも各位のお蔭だヨ、と、餘り人の口には乗らない編輯子、何だか擦つたい氣がしたが、夫れもその筈だ。

僕がN縣の知事をしてゐるとき、縣民に餘り道路改良の熱がないので、視察した道路の幅員が靴の長さにも足らなかつたので僕の靴を脱いで道幅と比較した寫眞を撮つ

た、其事が新聞に出たら縣會は滿場一致で道路改良費豫算を通過せしめたヨ、此調子で道路の改良を宣傳せなければ駄目だヨ、と、自慢か諷刺か判らない挨拶、随分人を喰つてゐる。

コー言ふ人遂に尻を叩かれてゐる編輯子だ、少しは同情して呉れ給へ。(路政僞)

本號定價 五十錢  
 一ヶ年分 金六圓

東京市麴町區大手町一丁目内務省内  
 發行所 社團 道路改良會  
 法人

發行兼 編輯者 小島 效

東京市小石川區諏訪町五六  
 印刷所 常磐印刷所

印刷者 堀江 關武